NIE実践報告

1．タイトル：☆「四川省大地震」についての各紙の報道を比較して読み解く

2．学校名

広島県神石郡神石高原町立二幸小学校

3．実践者名（代表者名）

岡田　隆行

4．学年

第5・6学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

総合的な学習の時間　6人

6．単元（本時の学習課題）名

四川省地震の報道から読みとろう

7．目標(狙い)

2008年5月に発生した中国四川省大地震の報道写真から、その被害の状況を推察し、自分なりにその被害の深刻さを読み取る。

8．評価の視点

各新聞の地震報道写真からどれだけの情報を読み取ることができるか。またその1枚の写真の背後にある人々の思いや願いを汲み取ることができるか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数

（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

各紙の地震報道が時間の推移とともにどのように変化していくかを1週間のスパンでとらえさせる。得た情報をもとに自分の思いや考えを制限字数にまとめて新聞各紙に投稿する。

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

1.全国紙、地方紙数紙の一面に取上げられた地震報道写真を比較させ、分かることをまとめる。
・1人1紙を選ばせる。できるだけ多くの種類の新聞を扱うと違いも見れておもしろい。
・「それぞれの写真からどんなことが分かるだろうか」と問い掛け、子ども達の観察力、推測力を引き出す。
・できるかぎり、記事にも目を通させる。とくに新聞社によって、死者数、負傷者数に違いがあることにも気付かせる。（情報が一定しないこと、取材のやり方によって違うこと）
2.数日後の新聞報道を同様に子どもなりに分析させ、分かったことを交流する。
・情報が一定してきていることに気付く。
・震災の直接報道から、復旧に向けた動きに報道スタンスが変化していることにも気づく。（本時）
3.自分がこの間の報道の変化や新聞社が1枚の写真を選ぶ難しさなど、自分がつかんだもので、投稿作文を書いて該当新聞社に発信する。※実際に産経新聞、読売新聞、山陽新聞などに採用される。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

「新聞はどこも同じだと思っていた。」「新聞社によって記事の書き方も違えば、使う写真も違うことに気付いた」との児童の声。新聞記事に果たす「写真」の役割に気付き始めた子が多い。編集の工夫と苦労に思いをめぐらし、「選ばれた１枚の写真」から、自分の感想や意見をまとめて発信する手応えをつかんだ。

12．成果と課題

【成果】
・新聞によって報道に違いがあることを実感できた。
・新聞にはテレビにはない制約があること。その1つが限られた写真の選択であることを理解し、真剣に1枚の写真を読み解いたこと。
・読み解いたことをもとに、自分の思いや考えをまとめて新聞各紙に発信できたこと。
【課題】まだこうした取組みは緒についたばかり。これからも積み上げが必要である。